

第1回 CHANCE ネットワーキング会を開催

テーマ：豊かさ（Prosperity）のリフレーミング

ーICT、AI 社会、その先の X 年後の社会を見据え真に捉える課題は何か

2018年11月9日（金）16:30～20:00 日本科学未来館 7F イノベーションホール

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）（JST 主催「サイエンスアゴラ 2018」同時開催）

JST は関係機関と共に、産業界や NPO などのさまざまなネットワークと学術・研究開発コミュニティの方々との繋がりをつくり、それぞれの強みを活かした共創を生む「未来社会デザインオープンプラットフォーム（CHANCE）」構想を提唱しています。このたび、ICT・AI 社会の先の豊かさのリフレーミングをテーマに多様なセクターの方々をつなぐ第1回ネットワーキング会を開催しました。当日は約60名が参加、国内外5名の話者提供者を囲んでのグループディスカッションではお話が尽きない様子も見られました。



▲話題提供者いただいた皆さん。

①藤井大地さん（NEDO 技術戦略研究センター新領域・融合（ロボット・AI）ユニット 研究員）

“Potentials of Data-Driven City Management”

②南澤孝太さん（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 准教授）

“EMBODIED MEDIA”

③加藤公敬さん（日本デザイン振興会 常務理事）

『デジタル社会におけるヒューマンセンタードデザインの力』

④國枝秀世さん（JST 上席フェロー/未来社会創造事業「持続可能な社会の実現」領域 運営統括）

『未来社会創造事業「知の拡張」テーマの背景』

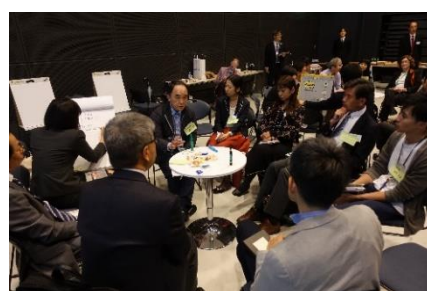
▲サイエンスアゴラ 2018 のキーノートセッション登壇者の3名からコメントをいただきました。

⑤Martha Russell さん（Executive Director of mediaX at Stanford University）

⑥Michiel Kolman さん（Senior Vice President of Global Academic Relations at Elsevier）

⑦Hank Kune さん（Founding Partner of the Future Center Alliance）

⑧会の冒頭では、JST 濱口理事長から趣旨説明が行われました。



▲グループディスカッションの様子。